

草津白根山（本白根山）の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ>

本白根山では、2018 年 1 月の噴火以降、噴火は発生していません。また、2018 年 2 月下旬以降、噴気は観測されておらず、本白根山火口付近の地震は、2018 年 12 月以降は少ない状態で経過しています。

これらのことから、火口から概ね 1 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなっていると判断し、本日（5 日）11 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

ただし、2018 年 1 月のように突発的に噴火が発生したことを踏まえ、火口付近では、突発的な噴出に注意する必要があります。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図 2）

噴火後に多発した火口付近ごく浅部の火山性地震は、2018 年 6 月から 8 月にかけてと 10 月下旬から 11 月下旬にかけてその発生頻度に高まりがみられましたが、12 月以降、少ない状態で経過しています。逢ノ峰付近を震源とする火山性地震は時々発生しています。

火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況（図 3）

2018 年 1 月 23 日の噴火後、鏡池北火口北側の火口列付近でごく弱い噴気がときどき観測されましたが、2018 年 2 月 22 日を最後に観測されていません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、関東地方整備局、東京大学地震研究所、東京工業大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

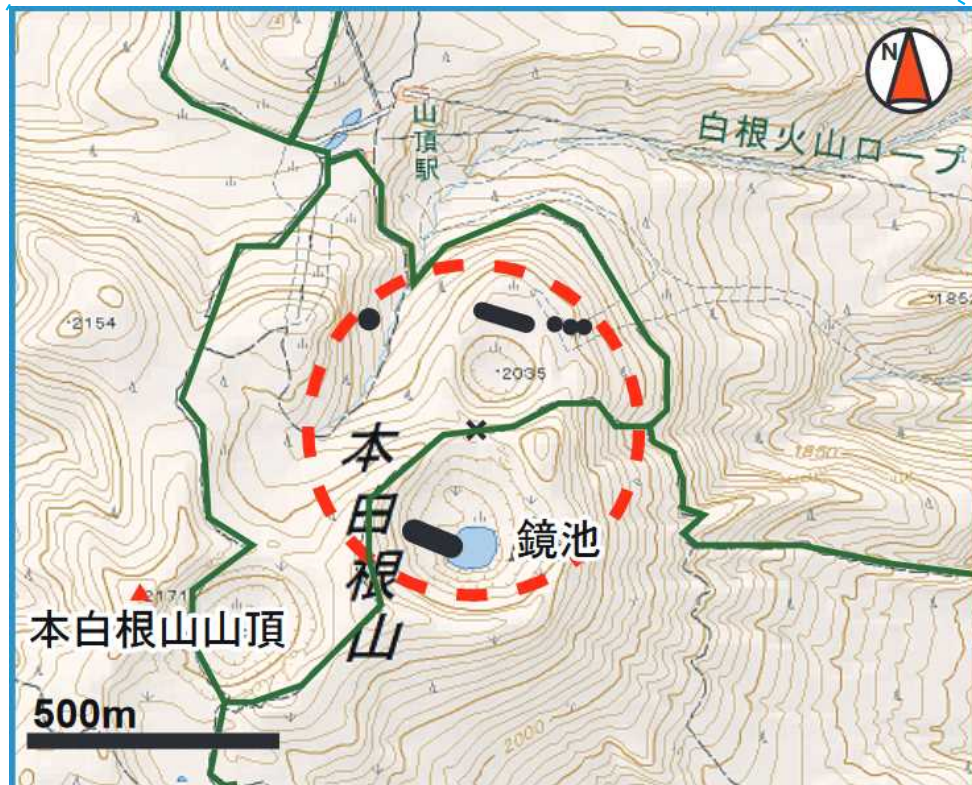
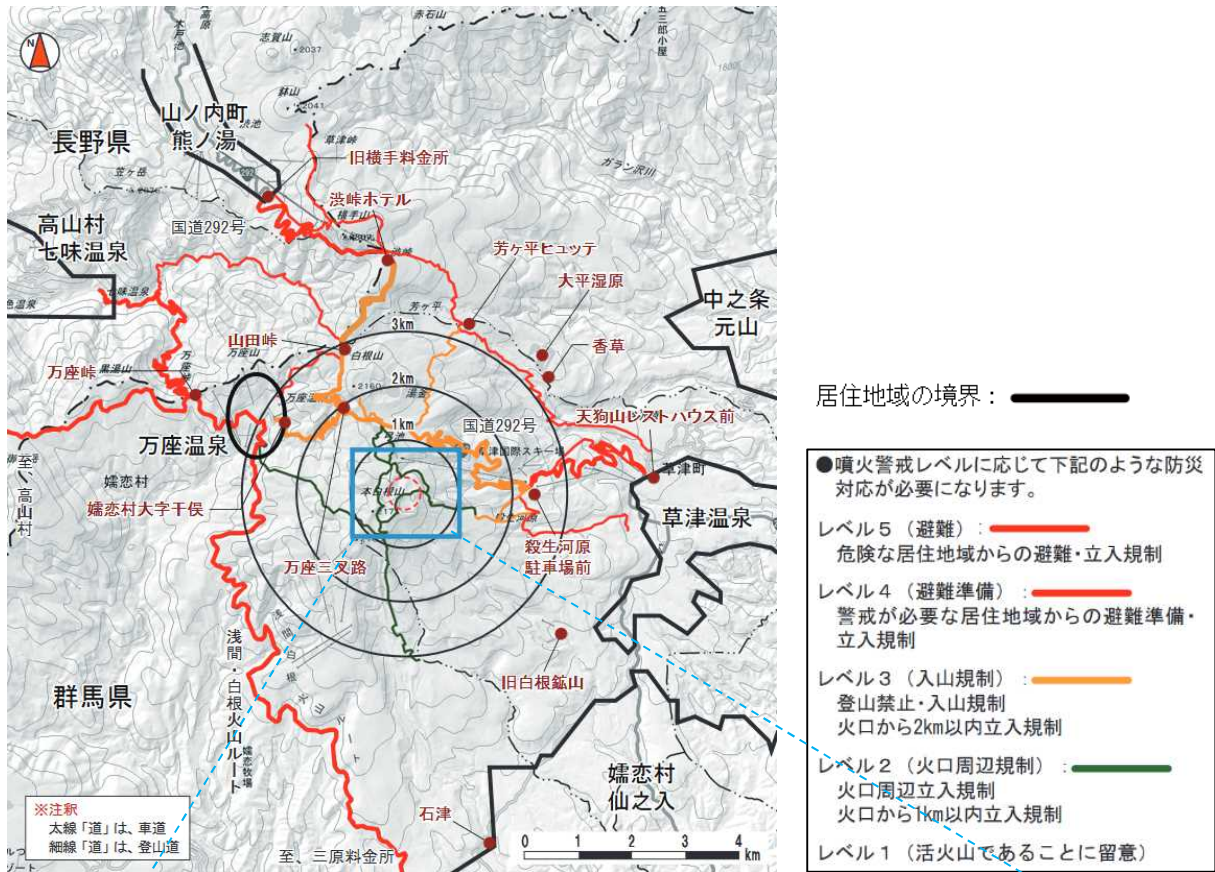


図1 草津白根山（本白根山） 2018年1月23日噴火の火口列

上段：広域図、下段：詳細図。

この地図は、国土地理院の『地理院地図』を利用しています。

詳細図の黒印は2018年1月23日噴火の火口列を示す。

赤点線円は火口付近（同火口列を含む領域）を示す。

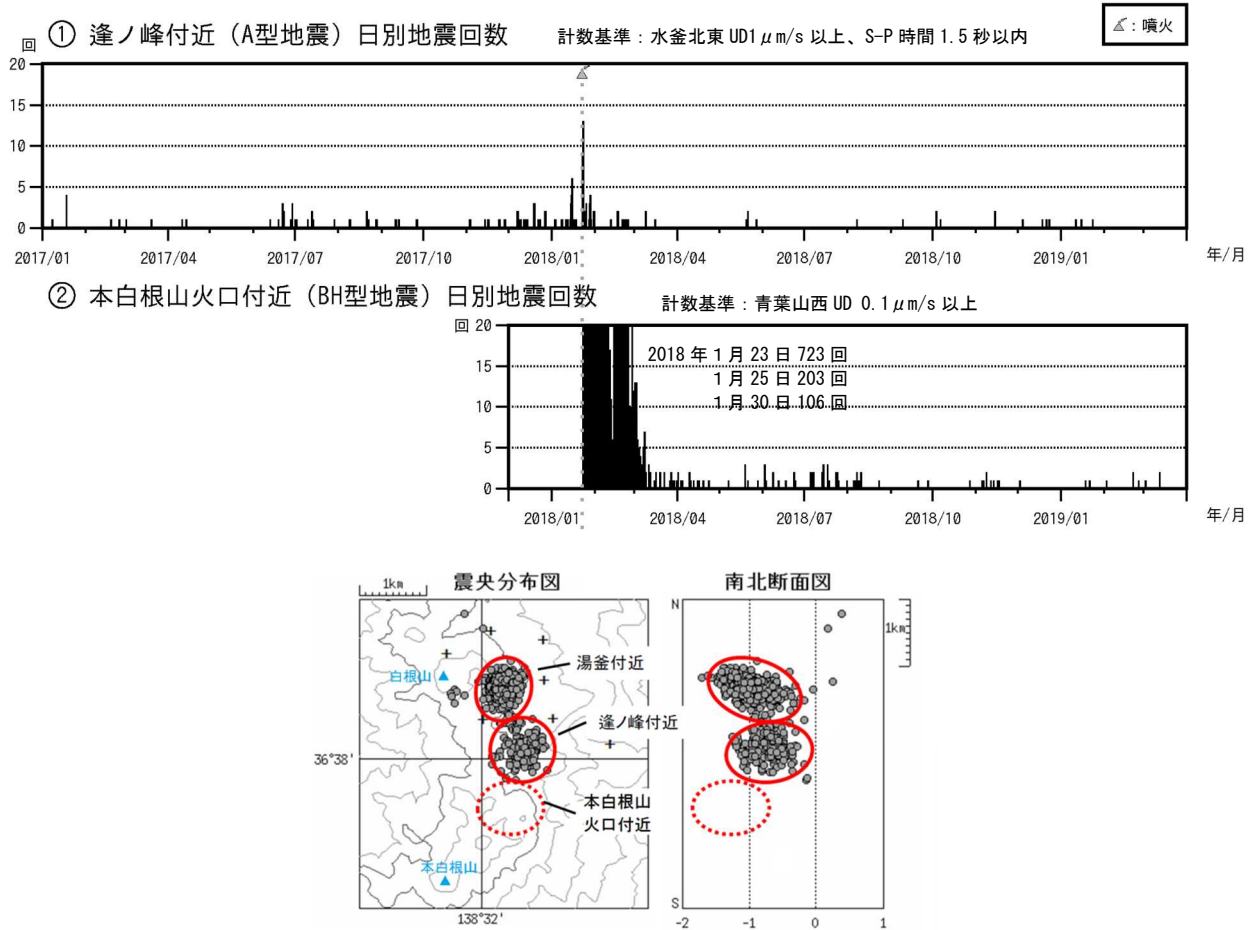


図 2 草津白根山 (本白根山) 火山活動経過図 (2017 年 1 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

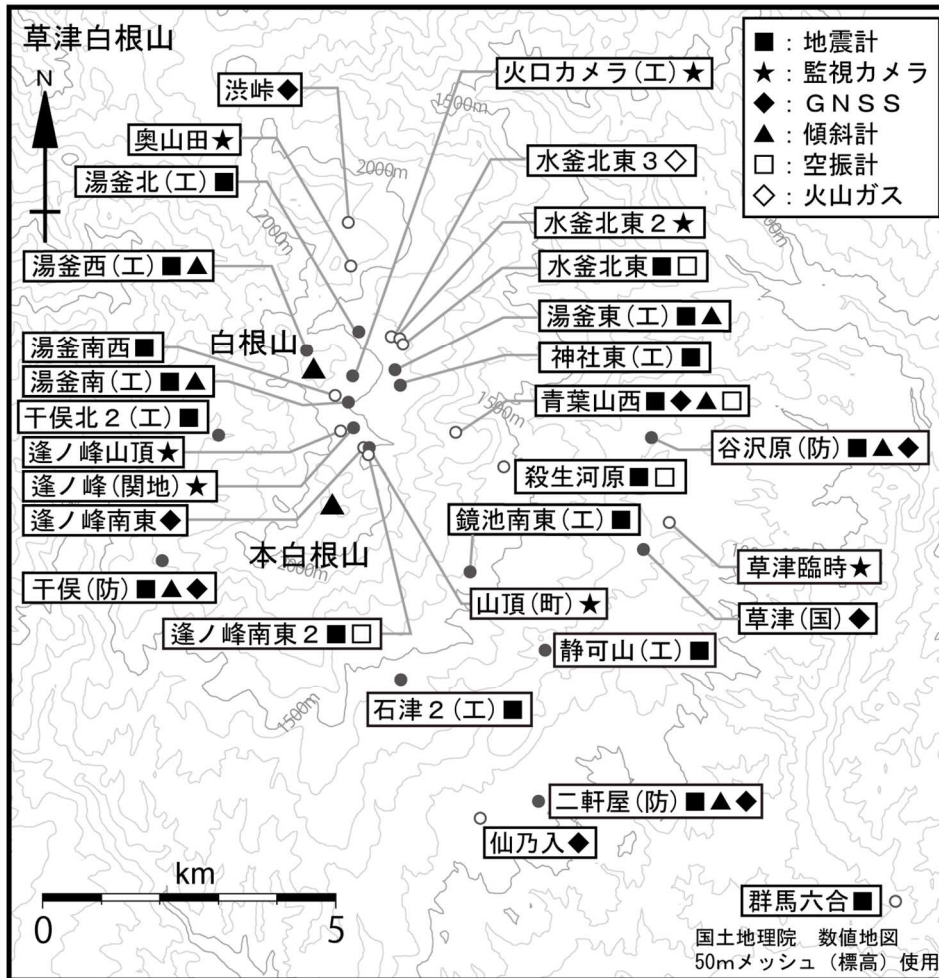
草津白根山では、火山性地震はその発生領域から、「湯釜付近」、「逢ノ峰付近」、「本白根山火口付近」に分けています。本白根山の火山活動については、逢ノ峰付近と本白根山火口付近の地震活動に注目して監視しています。

最下段の震源分布図は、①②の地震の震源の概ねの位置を示しています。

噴火発生後に多発した本白根山火口付近ごく浅部の火山性地震 (BH 型地震) は、2018 年 6 月から 8 月にかけてと 10 月下旬から 11 月下旬にかけて発生頻度に高まりが見られましたが、2018 年 12 月以降、少ない状態で経過しています。なお、BH 型地震は、初動が不明瞭なため、震源は求まっていません。



図 3 草津白根山 (本白根山) 本白根山付近の状況 (3 月 3 日、奥山田監視カメラ)



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(工): 東京工業大学、(関地): 関東地方整備局、(町) 草津町

図 4 草津白根山 観測点配置図